

外用殺菌消毒剤

ヘキサック®水溶液1%消毒布 20×30

Hexizac Solution 1% Antiseptic Cloth 20×30

クロルヘキシジン水溶液含浸布

Table with 2 columns: 日本標準商品分類番号, 872619

Table with 2 columns: 承認番号, 23100AMX00277000; 薬価収載, 薬価基準未収載; 販売開始, 2019年7月; 再評価結果, 1992年6月

貯法: 遮光した気密容器
使用期限: 包材等へ記載

- 【禁忌（次の患者及び部位には使用しないこと）】
1. クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 脳、脊髄、耳（内耳、中耳、外耳）
3. 腔、膀胱、口腔等の粘膜面
4. 眼

【組成・性状】

Table with 4 columns: 成分・含量, 担体, 添加物, 薬液量. Row 1: 本溶液 100mL 中、日局クロルヘキシジングルコン酸塩液 5mL (クロルヘキシジングルコン酸塩として 1g)

2. 製剤の性状
本剤に含浸している液は、無色～微黄色澄明の液である。

【効能・効果】
手指・皮膚の消毒

【用法・用量】
手指・皮膚の消毒には、洗浄後、1日数回適量を塗布する。

【使用上の注意】
1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること）

- (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者
(2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者

- 2. 重要な基本的注意
(1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。
(2) 産婦人科用（腔・外陰部の消毒等）、泌尿器科用（膀胱・外性器の消毒等）には使用しないこと。
(3) 本剤が眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗すること。

3. 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用
ショック（0.1%未満）、アナフィラキシー（頻度不明）：
ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

Table with 2 columns: 過敏症 (注), 発疹、蕁麻疹等（0.1%未満）

注）このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

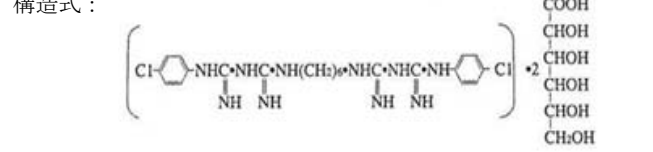
- 4. 適用上の注意
(1) 投与経路：外用にのみ使用すること。
(2) 使用時
1) 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は十分に洗い落としてから使用すること。

ら使用すること。
2) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。

5. その他の注意
クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

【薬効薬理】
低濃度では細菌の細胞膜に障害を与え、細胞質成分の不可逆的漏出や酵素阻害を起こし、抗菌作用（殺菌作用）を示す。高濃度では細胞内のタンパク質や核酸の沈着を起こすことにより、抗菌作用を示す。広範囲の微生物に作用するが、特にグラム陽性菌には低濃度でも有効である。グラム陰性菌にも比較的低濃度で殺菌作用を示すが、グラム陽性菌に比べて抗菌力に幅がある。グラム陰性菌のうち Alcaligenes、Pseudomonas、Achromobacter、Flavobacterium 属などにはまれに抵抗菌株もある。芽胞形成菌の芽胞には無効である。結核菌に対し水溶液では静菌作用、アルコール溶液では迅速な殺菌作用がある。真菌類の多くに対し抗菌力を示すが細菌類より弱い。ウイルスに対する効力は確定していない。

【有効成分に関する理化学的知見】
一般名：クロルヘキシジングルコン酸塩（Chlorhexidine Gluconate）
化学名：2,4,11,13-Tetraazatetradecanediimidamide, N,N'-bis(4-chlorophenyl)-3,12-diiminor, di-D-gluconate
分子式：C22H30Cl2N10・2C6H12O7
分子量：897.76
性状：通常、水溶液として存在し、その 20w/v%液は、無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦い。水又は酢酸（100）と混和する。本剤 1mL はエタノール（99.5）5mL 以下又はアセトン 3mL 以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。光によって徐々に着色する。



- 【取扱い上の注意】
1. 本剤の付着した白布を直接次亜塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生ずることがあるので、漂白剤としては、過炭酸ナトリウム等の酸素系の漂白剤が適当である。
2. 開封後は速やかに使用すること。

【包装】
1 枚入×30

【主要文献】
1) 大利隆行ほか：アレルギー、33（9）707（1984）
2) 第十七改正日本薬局方解説書 C-1772 廣川書店（2016）

【文献請求先】
吉田製薬株式会社 学術部
〒164-0011 東京都中野区中央 5-1-10
TEL 03-3381-2004
FAX 03-3381-7728